

公開実用 昭和56—10202



(4000)

実用新案登録願 (5)

昭和54年7月3日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称 加 熱 装 置

2. 考 案 者

居 所 千葉県柏市新十余二3番地1

日立熱器具株式会社内

氏 名 白 川 忠 義

3. 実用新案登録出願人

住 所 〒277 千葉県柏市新十余二3番地1

電話 柏 0471(31)1111(代表)

名 称(513)日立熱器具株式会社

代表者 藤 原 正 彦

4. 添付書類の目録

(1)、明 細 書 1 通

(2) ✓ 図 面 1 通

(3) 願書副本 1 通

方式

54 09153R

10202

1 P

明 細 書

1. 考 案 の 名 称 加 熱 装 置

2. 実 用 新 案 登 録 請 求 の 範 囲

オーブンおよび蒸気発生装置を内蔵する加熱装置において、前記オーブンと蒸気発生装置とを接続する配管のオーブン側端部に集中噴出部を有する蒸気ガイドを取付けたことを特徴とする加熱装置。

3. 考 案 の 詳 細 な 説 明

本考案はオーブンおよび蒸気発生装置を内蔵する加熱装置に関するものである。

従来のこの種加熱装置は第1図に示すように、本体1内にオーブン2と蒸気発生装置例えばボイラ3を設け、この両者2, 3を配管4により接続し、ボイラ3で発生した蒸気を配管4のオーブン2側噴出口4aよりオーブン2内に噴出するように構成されている。

このような構造において、蒸気がオーブン内部に充满し、オーブン内の温度が上昇して調理品を加熱する。この加熱は調理品の多少にかゝらず

10202

2 P

蒸気発生量が同一であるため、特に調理品が少量のときには、熱エネルギーを浪費する欠点がある。

本考案は上記欠点を解消し、蒸気調理の効率を向上させることを目的とするもので、オーブンおよび蒸気発生装置を内蔵する加熱装置において、前記オーブンと蒸気発生装置を接続する配管のオーブン側端部に、集中噴出部を有する蒸気ガイドを取付けたことを特徴とするものである。

以下本考案の一実施例を図面を参照して説明する。

第2図および第3図において、1は加熱装置の本体、2は本体1内に設けられたオーブン、4aはオーブン2と蒸気発生器（図示せず）を接続する配管（図示せず）のオーブン2に開口する端部、5は一端が前記端部4aに取付けられ、他端には任意数の噴射口5bを有する集中噴出部5aが設けられた蒸気ガイドで、その集中噴出部5aはオーブン2の底部の中央に設置されている。6は調理品を示す。

本実施例は上記のように構成したので、蒸気を

3 P

蒸気ガイド5を介してその集中噴出部5aへ導き、この集中噴出部5aに設けられた噴出口5bから調理品6の設置されているオーブン2の中央部へ集中的に噴射させることができる。

以上説明したように、本考案によれば蒸気を集中的に調理品に噴射させることにより、蒸気調理の効率を向上させることができ、また調理品が少量のときにも熱効率の低下を防止することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の加熱装置の一部切開正面図、第2図は本考案の加熱装置の一実施例で、ドア開放状態を示す正面図、第3図は第2図の蒸気ガイドの斜視図である。

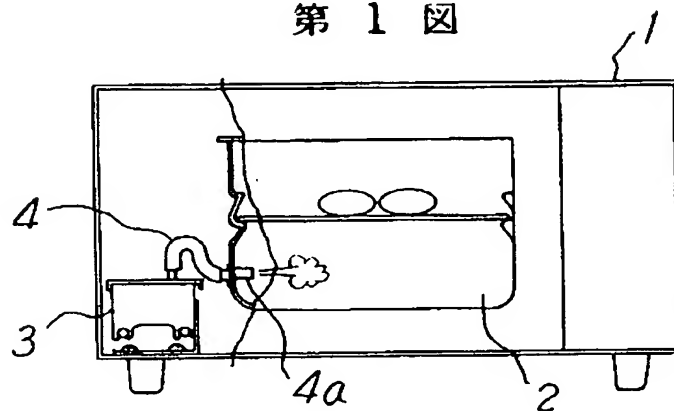
2 …… オーブン、 3 …… 蒸気発生装置

4 …… 配 管、 5 …… 蒸気ガイド

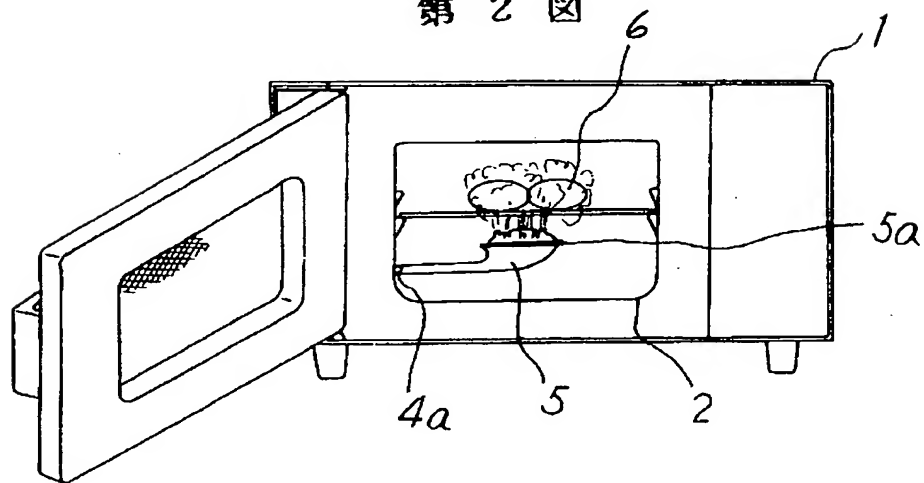
5a …… 集中噴出部。

出 願 人 日 立 熱 器 具 株 式 会 社

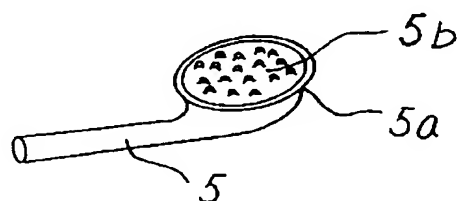
第 1 図



第 2 図



第 3 図



10202

出願人 日立熱器具株式会社